

# 平成22年度高鍋町事務事業評価表

## ◎事務事業の概要

事務事業名	放課後学習チューター事業				開始年度	平成17年度	
基本目標	教育内容の充実				終了年度		
担当課(局)	教育総務課	担当係	教育総務係	記入者	濱本 生代	評価者	黒水 日出夫
21年度決算	957	千円	22年度予算	973	千円	事業の実施方法	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
21年度人件費	219 千円		22年度人件費	217 千円		事業従事者数	0.03 人 0.03 人

## ◎事務事業の目的・内容

事業の目的	児童の学習上のつまづきの解消や学習意欲の向上を図るとともに、南九州大学教育課程専攻学生の将来の教員としての資質、能力の向上につなげる。
事業の内容	小学校5・6年生で事業への参加を希望する児童を対象に、東西小学校へ週1回、1時間、チューターを派遣し、学習支援を行う。

## ◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	# 参加児童数	学習上のつまづきを解消し、学習意欲の向上を図ることができた。
	2 参加チューター数	南九州大学教職課程専攻学生の、教員としての資質、能力の向上を図ることができた。
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	# 実施回数	小学校及び大学の長期休業期間中や学校行事で実施できない日を除き、学習の機会を設けた。
	2 チューター派遣数	参加希望学生を児童数に応じて派遣するチューター数を調整し、きめ細かな指導を行った。

## ◎達成状況

指標名		単位	20年度	21年度	22年度
成果指標	参加児童数	目標値			
		実績値	人	148	42
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
	参加チューター数	目標値	人	30	20
		実績値		25	14
		達成率	%	83.3%	70.0%
	0				
活動指標	実施回数	目標値	回	90	46
		実績値		62	34
		達成率	%	68.9%	73.9%
	チューター派遣数	目標値	人	600	230
		実績値		306	132
		達成率	%	51.0%	57.4%
	0				
		%	#DIV/0!	#DIV/0!	

## ◎事務事業の評価

妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか ◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか ◎事業廃止による影響があるのか	町が行うことで家庭環境に因ることなく、等しく学力向上の場を提供することができた。
有効性	◎目標に対して成果は得られているか ◎成果向上のための改善余地があるか	チューターの記録簿から、児童への指導の難しさや、それを克服したときの達成感が伝わり、子どもたちの学習のつまづきの解消、チューターの資質・能力の向上につながった。
効率性	◎活動量の効果は上がっているか ◎経費や時間の削減余地があるか	学習指導要領の改訂に伴い授業時数が増加したことに加え、チューター希望の学生の減少により、20年度まで行っていた3・4年生が実施できなかった。
協働性	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	南九州大学の移転に伴い、本事業そのものの見直しが必要となった。 町民のこれまでの経験や知識を活かし、協働で新事業を進めていくことは可能と考える。

事務事業名	放課後学習チューター事業	担当課(局)	教育総務課
-------	--------------	--------	-------

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	小学生の学習能力向上に大変役立っている事業である。今後、地元の大学生がいなくなるということで、新しい試みも必要になってくるので、そのことにも挑戦してもらいたい。	今後の方向性				
			拡充				
			現状維持				
			縮小		○		
			廃止				
			廃止	縮小	現状維持	拡充	
			コスト				

事務事業評価委員会 評価欄	事業	廃止	◎南九州大学移転に伴い、先生の確保が難しく、新たな学習指導をお願いしたい。 ◎来年度以降、必要性を見極めながら別事業の実施を検討すべきである。 ◎南九州大学生がいなくなることは、明らかであったはずである。他の大学生や教員資格のある主婦等も対象に講師を募集してはどうか。
	コスト	廃止	